

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470400393		
法人名	社会福祉法人 慈愛会		
事業所名	グループホーム ひまわり ユニット1		
所在地	日田市大字東有田字町の坪2-4		
自己評価作成日	令和3年11月30日	評価結果市町村受理日	令和4年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和3年12月17日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気大切に、入居者のペースでゆっくりと過ごしています。職員と一緒に味噌や干し柿作り、柚子皮を剥いたり季節を感じられるよう行事を行っています。また、施設内の畑で四季折々の作物の収穫も楽しみの一つです。新型コロナウイルス感染症の為、有料老人ホームでの習字教室やレクレーション協会の講師の方がこられての合同レクは現在中止していますが、他の入居者との交流の機会があり楽しみの一つです。また、ユニット合同の敬老会や運動会などを行っています。昨年は家族会ができませんでしたが、時期を見ながら開催したいと思っています。家族との絆が切れないように、タブレットによるテレビ電話を実施しています。安心して毎日が過ごせるように安全面には注意し環境整備に努めています。健康面にも注意し落ち着いて生活できるように支援しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・各居室にはライブコネクというセンサーを設置し、夜間の見守りがより充実したものになり、家族の安心感を得ている。  
 ・職員は常に4人体制を取っており、職員の気持ちのゆとりにつながっている。  
 ・職員同士のコミュニケーションが取れていて、利用者の少しの変化にも気付き全職員が共有できる体制となっている。  
 ・コロナ禍でありながら、駐車場で近隣の小学校や幼稚園からの慰問を受け入れたり、近隣の方からの差し入れがあるなど地域との付き合いがうまくできている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域福祉の拠点として公正で開かれた施設運営に努めるとの理念を理解できるように話し合っています。	グループホーム独自の理念を掲げ、毎日利用者とともに唱和している。理念がすべてと考え、全職員の共通目標となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入しています、また運営推進委員会に自治会長、民生委員、公民館館長、駐在所所長の参加があり地域の情報を共有しています	自治会長や公民館長が切り花や、手作りのおもちゃを持ってきてくれたり、小梅をもらい梅干を作った。近隣の小学生や幼稚園児の鼓笛隊、吹奏楽での慰問に来て、駐車場で披露してくれ、とても喜ばれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献のため、学生の受け入れを行っていますが、新型コロナウイルス感染症の為、受け入れは中止しています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2カ月に1回開催し、市の職員、包括支援センター、民生委員、公民館館長、駐在所所長、家族代表、職員での情報交換を行っています。また、家族や行政の意向や情報等をサービス向上に活かせるよう職員に周知しています	コロナ禍の中でも、運営推進会議が開催され、包括からのヒヤリハットの記録の仕方の提案を受けたり、家族からはロボットの導入の提案があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会などの時に市の職員や包括支援センターの担当者に相談し、指導を頂いています。また、災害時には施設を避難場所として活用してもらえるようになっていきます。	コロナ対策について市の方針を聞いたり、必要時には常に連絡を取り合っている。市からの要請があれば災害避難所として受け入れる体制が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	資料や研修を通して学習し、身体拘束をしない取り組みを行っています。職員間でも身体拘束をしないことに努めています。	年4回の研修の中で、事例検討や何が身体拘束に当たるのかなどを話し合っていて、身体拘束をしないケアの取り組んでいる。不適切な言葉が出たときは、その場を離れ、適切に伝えるよう注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料や研修を通して学習し、虐待を行わないケアへの取り組みを行います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は日常自立支援や成年後見制度について学ぶ機会を持ち活用できるように支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約、または改定等の際は利用者や家族に十分な説明を行い、理解、納得を図っています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設け対応、また、面会の際に意向や要望を聞き、管理者や職員に周知しサービスの向上に反映させています	コロナ前は家族会で食事会をして好評だったが、この2年間は出来ていない。毎月出す便りを見て、写真が小さいので大きくすることや、歩行器の大きさの要望などを聞き、家族の意見を反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や会議の中で通常業務のほか問題点や職員の意見を聞き業務に反映させています、また、管理者は職員を気にかけてくれます	休憩時に管理者が悩みを聞いたり、施設長が細やかに声をかけてくれ、気軽になんでも相談できる雰囲気である。シフトの交代や必要な物品などの購入はいつでも可能である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が利用者にとって良いケアができるよう、また、各自が向上心を持てるよう、職場環境、条件整備に努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員1人1人のケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会を確保しています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加しています。会議の内容は職員に報告していますが研修会や交流会は新型コロナウイルス感染症の為行われていません		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が不安に思うことや要望に傾聴しながら、本人が安心できる関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込時に、家族からの相談や要望、不安なこと傾聴することで安心感をもってもらっています、またご本人さんの生活歴等を聞いています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来られた際、併設施設や他施設の情報を伝え、安心できるサービスを提供しています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	要望や意向をその都度確認しながら本人の出来ることを大切に、日常生活の中で会話を増やし、他の入居者の方と交流ができるよう職員は支援しています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症の為現在は家族との外出や外泊は行っていませんが、状況を見ながら再開を考えています	通院の帰りに寄り道をし、自宅の前まで行き、近所の人と話したり、暑中見舞いや年賀状、電話でなじみの関係が途切れることの無いよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションなどを通じて入居者同士がかかりあえるように職員が支援しています。また、孤立しないよう職員がかかわりを持ち支援しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院による退居等では状況に応じて経過をフォローし相談や支援に努めています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の思いや暮らし方の希望を聞き入れ、また家族より生活歴などをアセスメントにより把握し意向の把握に努めています。	寝る前や一人になったときにじっくり話をしてくれる人もおり、ゆったり寄り添って表情やしぐさで意向を把握している。本人がしたいことを無理のなくできるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	1人1人の生活歴やなじみの暮らし方などを家族より聞き取りをし、自分らしく安心して生活できるように努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の一日の過ごし方や、心身身体の状態や有する能力の現状把握に努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態、職員間で話し合いを持ち、家族の意見を聞き、ケアマネと常に連携し現状に即した介護計画書を作成しています	3か月から6か月に1回モニタリングを行い、食事量やトイレ回数など細かな変化を見逃すことなくプランの見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果、工夫や気づきを個別記録に記入し、職員間で情報を共有しています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他施設の情報や法人内の有する施設、在宅サービスなどの利用が出来るよう、また日中や夜間に関わらず柔軟なサービスに取り組んでいます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染症の為、地域行事への参加が出来ていませんが、状況に応じて参加出来るように努めたいと思います、また災害時は地域の消防団が駆けつけてくださるようになっていきます		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医他、利用者のかかりつけ医を利用出来ます、家族と協力しながら通院を行い、適切な医療を受けられるように支援しています	ほとんどの人がもともとのかかりつけ医に受診している。通院は職員が支援し、必要時には家族にも同行してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常生活の中でとらえた情報や気づきを職場内の看護師や併設施設の看護師に相談、適切な受診や看護を受けられるように支援しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は利用者の個人情報や医療機関へ提出しています。また、医療相談員や看護師より情報を頂き退院後の相談、会議等を行っています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に関して説明し、看取りは行っていませんので事業所で出来ることを家族と十分に話を行っています	入居時に重度化した時の方針を話し理解してもらっている。重度化した場合は住み替えも含め、家族や主治医などとも十分話し合いをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	身体状況によっては救急車を要請し、医療機関への搬送の方法を取ります。また応急処置の研修を行い、緊急時の対応に備えています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成、年に2回、4月と10月に避難訓練や水害を想定した訓練を行っています。災害時や火災の際は地域の消防団の協力が得られるようになっていきます	災害時は消防団にも協力を要請し、持ち出し物品や役割を決めている。水害時は2階に避難をすると決めており、備蓄も2階に準備をしている。実際に水害時に体育館から避難者を受け入れた経験がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の尊厳を大切にしじんかくを尊重しプライバシーを損ねないように言葉かけ、声掛けに対応しています	記録は目につかないよう工夫し、プライバシーを損ねない声掛けを行っている。また、3か月に1回、職員の個人評価の中で自己評価を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを傾聴し、自己決定が出来るように支援しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者1人1人のペースに合わせて本人のやりたいことや好きなことをして過ごせるように支援しています。日々穏やかに過ごせるように支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやお洒落が出来るように努めています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養のバランスを考え、3食手作りしています。器や盛り付けに配慮し食事が楽しみになるように努めています。また、食後には茶碗拭きなどのお手伝いをして頂いています	各ユニットでそれぞれに献立を考え、職員が手作りしている。利用者もできることは手つだい、おやつも手作りしている。誕生会やイベントの時は2ユニット合同で一緒に食べる楽しみもある。季節に応じ、味噌や干し柿も一緒に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量やバランスを考え、不足があれば食事以外のものでの摂取を考えています。水分量も不足していればゼリーなどで補足し、状況に応じて接種できるように支援しに努めています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人の口腔状態や能力に応じた口腔ケアを行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的な声掛け誘導と個々の排泄パターンに合わせて行っています。ご自分で出来る方は自立支援に努めています。	排泄は自立している人が多く、日中は自分で行くことができる。各自の排泄パターンを把握している。夜間はポータブル使用の人やパット交換する人もいる。センサーを用いて安眠を妨げないよう対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	手作りの経口補水液の補給と食事による自然排便の促しや体操を取り入れてます。おむね4日間排便がないときは頓服使用。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個浴にて入浴し皮膚疾患の有無やゆったりと会話をしながら行っています。ご本人の体調に合わせ無理に入浴せず清拭や陰洗に変更し支援してます。	入浴は2日に一回を基本としているが、希望があればいつでも入浴できるようにしている。必ず湯船につかれるようリフトも設置し、入浴剤や柚子を入れるなどリラックスできるよう工夫して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の室温管理や天気の良い日は布団干しを行い快適にお休みいただけるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容と効能の把握や症状に変わりがあるときは速やかに主治医に相談助言を頂き調整している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しやたたんでいただいたり、また、天気の良い日は散歩して外で歌ったりします。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近年は新型コロナウイルスの感染予防の為積極的な外出は控えているが、施設敷地内の散策支援しています。	コロナ禍で外出は控えているが、受診時に自宅に立ち寄ったり、景色を楽しんだりしている。日常的に外での日光浴や、園内の散歩を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は行えない方がほとんどのためご本人のおこずかいをお預かりし希望の品があればご家族の方に確認し購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	タブレットによるテレビ電話やご家族からの電話の際はご本人と話をして頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には季節の花を飾ったり、トイレや浴室が分かりやすいようにイラストなど使用しわかりやすい工夫をしています	全員がソファーに座ってテレビを見たり歌を歌えるように配置している。またリビングとダイニングで配置を変えるなどし、気分転換できるよう工夫している。季節の花や壁飾りを飾り明るい雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座り入居者同士での会話の機会を作っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時に使用していた寝具や小物などを持ち込んでいただき安心して過ごしていただくようにしています。	使い慣れた寝具や、鏡台、化粧ケース、テレビを置き、落ち着いた居心地よく過ごせる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの環境に加え手すりの配置や名称の表示などにより視覚判断することが出来るように支援しています。名称を貼ります		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470400393		
法人名	社会福祉法人 慈愛会		
事業所名	グループホーム ひまわり ユニット2		
所在地	日田市大字東有田字町の坪2-4		
自己評価作成日	令和3年11月30日	評価結果市町村受理日	令和4年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和3年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気大切に、入居者のペースでゆっくりと過ごしています。職員と一緒に味噌や干し柿作り、柚子皮を剥いたり季節を感じられるよう行事を行っています。また、施設内の畑で四季折々の作物の収穫も楽しみの一つです。新型コロナウイルス感染症の為、有料老人ホームでの習字教室やレクレーション協会の講師の方がいられての合同レクは現在中止していますが、他の入居者との交流の機会があり楽しみの一つです。また、ユニット合同の敬老会や運動会などを行っています。去年は家族会ができませんでしたが、時期をみながら開催したいと思っています。家族との絆が切れないように、タブレットによるテレビ電話を実施しています。安心して毎日が過ごせるように安全面には注意し環境整備に努めています。健康面にも注意し落ち着いて生活できるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【グループホーム ひまわり ユニット1に記載】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域福祉の拠点として公正で開かれた施設運営に努めるとの理念を理解できるように話し合っています。毎朝入居者の方と復唱しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入しています。また運営推進委員会に自治会長、民生委員、公民館長、駐在所所長の参加があり地域の情報を共有しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献のため、学生の受け入れを行っていますが、新型コロナウイルス感染症の為受け入れは中止しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2カ月に1回開催し、市の職員、包括支援センター、民生委員、公民館館長、駐在所所長、家族代表、職員での情報交換を行っています。また、家族や行政の意向や情報等をサービスの向上に活かせるよう職員に周知しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会などの時に市の職員や包括支援センターの担当者に相談し、指導を頂いています。また、災害時には施設を避難場所として活用してもらえるようになっていきます。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	資料や研修を通して学習し、身体拘束をしない取り組みを行っています。職員間でも身体拘束をしないことの周知に努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月代表者による虐待防止委員会の開催と資料や研修を通して学習し、虐待を行わないケアへの取り組みを行います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は日常自立支援や成年後見制度について学ぶ機会を持ち活用できるように支援しています。必要時には家族にもご説明いたします。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約、または改定等の際は利用者や家族に文章による十分な説明を行い、理解納得を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設け対応、また、面会の際に意向や要望を聞き、管理者や職員に周知しサービスの向上に反映させています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や会議の中で通常業務のほか問題点や職員の意見を聞き業務に反映させています。また、管理者は職員を気にかけてくれています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が利用者にとって良いケアができるよう、また、各自が向上心を持てるよう、職場環境、条件整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員1人1人のケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会を確保しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加しています。会議の内容は職員に報告していますが研修会や交流会は新型コロナウイルス感染症の為行われていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が不安に思うことや要望に傾聴しながら、本人が安心できる関係作りに努め会話を心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込時に、家族からの相談や要望、不安なことを傾聴することで安心感を持ってもらっています。また、ご本人さんの生活歴等を聞いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来られた際、併設施設や他施設の情報を伝え、安心できるサービスを提供しています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	要望や意向をその都度確認しながら本人の出来ることを大切に、日常生活の中で会話を増やし、他の入居者の方と交流が出来るよう職員は支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症の為現在は家族との外出や外泊は行っていませんが、状況を見ながら再開を考えています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションなどを通じて入居者同士が関わりあえるように職員が支援しています。また、孤立しないよう職員がかかわりを持ち支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院による退居等では状況に応じて経過をフォローし相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の思いや暮らし方の希望を聞き入れ、また家族より生活歴などをアセスメントにより把握し意向の把握に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	1人1人の生活歴やなじみの暮らし方などを家族より聞き取りし、自分らしく安心して生活できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の一日の過ごし方や、心身身体の状態や有する能力の現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態、職員間で話し合いを持ち、家族の意見を聞き、ケアマネと常に連携し現状に即した介護計画書を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果、工夫や気づきを個別記録に記入し、職員間で情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他施設の情報や法人内の有する施設、在宅サービスなどの利用が出来るよう、また日中や夜間に関わらず柔軟なサービスに取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染症の為、地域行事への参加が出来ていませんが、状況に応じて参加できるように努めたいと思います。また災害時は地域の消防団が駆けつけてくださるようになっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医他、利用者のかかりつけ医を利用できます。家族と協力しながら通院を行い、適切な医療を受けられるように支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常生活の中でとらえた情報や気づきを職場内の看護師や併設施設の看護師に相談、適切な受診や看護を受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は利用者の個人情報や医療機関へ提出しています。また、医療相談員や看護師より情報を頂き退院後の相談、会議等を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に関して説明し、看取りは行っていないので事業所で出来ることを家族と十分に話を行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	身体状況によっては救急車を要請し、医療機関への搬送の方法を取ります。また、応急処置の研修を行い、緊急時の対応に備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成、年に2回、4月と10月に避難訓練や水害を想定した訓練を行っています。災害時や火災の際は地域の消防団の協力が得られるようになっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者1人1人の尊厳を大切にし人格を尊重しプライバシーを損なわないように言葉かけ、声かけに対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを傾聴し、自己決定が出来るように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者1人1人のペースに合わせて本人のやりたいことや好きなことをして過ごせるように支援しています。日々穏やかに過ごせるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやお洒落が出来るよう努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養のバランスを考え3食手作りしています。器や盛り付けに配慮し食事が楽しみになるように努めています。また、食後には茶碗ふきなどのお手伝いをして頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量やバランスを考え、不足があれば食事以外の物での摂取を考えています。水分量も不足していればゼリーなどで補足し、状況に応じて摂取出来るように支援に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人の口腔状態や能力に応じた口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的な声かけ誘導と個々の排泄パターンに合わせて行っています。ご自分で出来る方は自立支援に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	手作りの経口補水液の補給と食事による自然排便の促しや体操を取り入れています。おむね4日間排便がないときは頓服使用。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個浴にて入浴し皮膚疾患の有無やゆったりと会話をしながら行っています。ご本人の体調に合わせ無理に入浴せず清拭や陰洗に変更し支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の室温管理や天気の良い日は布団干しを行い快適にお休みいただけるように支援しています。また、個々の入眠に合わせてステーションにて寝るまで過ごして頂きます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容と効能の把握や症状に変わりがあある時は速やかに主治医に相談助言を頂き調整している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しやたたんでいただいたり、個別のプランターを作り花を植えてお世話をして頂いています。また、天気の良い日は散歩して外で歌ったりしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近年は新型コロナウイルス感染症予防の為積極的な外出は控えているが、施設敷地内の散策支援しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は行えない方がほとんどのためご本人のおこずかいをお預かりし希望の品があればご家族の方に確認し購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	タブレットによるテレビ電話やご家族からの電話の際はご本人と話をしています。Lineなどを使用し連絡ツールとしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には季節の花を飾ったり、トイレや浴室が分かりやすいようにイラストなどを使用しわかりやすい工夫をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座り入居者同士での会話の機会や本や雑誌を配置して自由に読める空間を作っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時に使用していた寝具や小物などを持ち込んでいただき安心して過ごしていただけるようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの環境に加え手すりの配置や名称の表示などにより視覚判断することが出来るように支援しています。名称を貼っています。		